



研究所便り

# しまんと

発行：四万十町教育研究所

第105号（通し番号）

令和6年5月21日 発行

さわやかな季節となりました。皆様におかれましては、新しい環境にも慣れ、職務にお励みのことと存じます。教育研究所・教育支援センターも様々な相談をいつでもどこでも受けられるよう、準備が整いました。その相談内容によって関係機関へとおつなぎし、児童生徒の環境改善に努めていきたいと考えています。

児童生徒の問題行動や不登校が出た場合、とにかく一人で抱え込むことなく、研究所や支援センターにご相談いただき、その原因を探りながら、少しでもより良い方向に導けたらと考えています。本年度もよろしくお願ひします。

## <チーム研究所で頑張ります!研究所のメンバーを紹介します。>

所長	野村 泰子	教育支援センター指導員	榊山 雅子
研究員	武政 仁美	教育支援センター指導員	中平均
SSW	齋藤 マサ	教育支援センター指導員	国広 由香
SSW	小野川 恵利	教育支援センター指導員	中津 吉弘
発達教育支援員 (言語聴覚士)	西田 香利	教育支援センター指導員	藤原 克彦
		事務職員	長山 智花

※研究所の事務所内には少年補導センターもあり、所内での会など、毎月合同で行っています。補導案件等がありましたら、ご連絡ください。

教育研究所 ☎ 22-3287

補導センター ☎ 22-1197

### 早期発見・早期対応で

教育研究所は教育相談・発達  
相談・校内研修を支援します。

不登校、またはその傾向は町内においては4月当初は昨年度に比べると、減少傾向にあります。が、やはり、ゴールデンウィーク明けには増加していました。欠席の原因にもよりますが、今、この時対応をしていくことで、少しは解消できるかも、という仮説を頼りにSSWや発達教育支援員が今日も出かけています。

早期発見の手がかりには、例えば、①家庭環境が変わった ②家庭学習が出来なくなった ③欠席が2日、3日と続く ④遅刻が多くなったりと行動に変化が見えたりするなどが考えられます。また、手がかりをつかむには、行動に変化がある前の状況が見えていないとつかめません。発見できるのは学校現場の先生方です。どうか、お気づきの時には時間を空けずに相談、対応していただきますよう、お願ひします。欠席が常態化すると、昼夜逆転の生活になり、なかなか対応が難しくなります。保護者が子どものことで困って学校に相談された場合でも学校が仲介して、研究所や支援センターに保護者をつないでくださると、改善策が見つかることも期待できます。久保SCも月に1回、教育支援センターの勤務(5/30)となっています。ご活用ください。

<教育研究所 所長 野村 泰子>

## もんちゃんえんぴつ教室

本年度も、田邊建設さん、四万十うなぎ株式会社さん、宗崎幸子さんより「筆育もんちゃんえんぴつ」を1、2年生に寄贈していただきました。その鉛筆を使って、絵本の店コッコさんによる「えんぴつの持ち方教室」を開催しました。（影野小は28日に実施予定）

子どもたちは、『もんぱぱ（親指）もんまま（人差し指）もんにいさん（中指）は力持ち』という魔法の呪文を唱えながら、鉛筆と指を合わせていき、正しい鉛筆の持ち方を学んでいました。1年担任の先生方には、教室開催に協力していただきありがとうございました。寄贈していただいた企業と宗崎さんにお礼の手紙を届けたいと思いますので、可能な範囲で子どもたちに書いてもらうようよろしくお願いします。



## 研究員の研究について協力をお願い

本年度も研究テーマを「四万十町 ICT 教育推進計画の実践と検証～ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて～」とし、クラウド等を活用した授業改善や授業と授業外学習のシームレスな学びについて研究していきます。各学校でICTに係る研修を行う際には、一緒に参加し学ばせていただきたいです。授業の様子を「研究所便り」でも紹介していきたいと思いますので、公開授業、研究授業等のご連絡をいただくと嬉しいです。また、「こんなことをやってみたいけど、どうしたらいいだろう？」ということがありましたら、学校教育課のICT担当やICT支援員と一緒にできるだけ対応させていただきたいと思いますので、研究所までご相談ください。よろしくお願いします。

## 教科書展示会のお知らせ



6月14日（金）～27日（木）の午前9時から午後5時まで、農村環境改善センター第1会議室にて、教科書展示会を開催いたします。小学校、中学校、高校の教科書が展示されておりますので、ぜひ足をお運びください。

展示会以外は、教科書センターにて常時閲覧・貸し出しができますので、こちらの方もご利用ください。（展示会中は閲覧のみです。）